

令和 7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

宮原中学校区 校番12 呉市立宮原小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善	○子どもが「分かる」「できる」授業に改善する。 ①	○わけをつけて表現することについて児童の意識が高まっているので、サークルトークにつなげられるようにしていく。 ○振り返りのワークシートを活用することで、振り返りの時間確保の意識が高まり、教員・児童ともに取り組みやすくなった。 ○テストの平均点については、全体で見ると目標値に到達しているが、学年別に見て、目標値に達していない学年は、個別の支援を要する児童の割合が高い。	○児童がサークルトークの実際を参観する機会を設け、自分たちのサークルトークにいかしていく。(まずは5年生が6年生の授業を参観) ○継続して取り組み、振り返りを次時の課題提示や導入に生かしていく。 ○2年生で、「学びの基盤に関する調査」を実施して実態を把握し、指導に生かす。 ○児童の実態に合わせた授業改善に取り組む。そのために、毎週火曜日の放課後に教材研究を行う時間を位置づける。その時間の終わりには、考えた授業づくりについて低・中・高学年ブロックで交流する時間を設定する。また、必要に応じて、全体で交流する場を設定する。
**	児童に自己指導力の育成	○誰もが安心・安全な環境で学べる学校風土の醸成 ① ○児童に生活のスタイルを定着させる。 ○防災教育を深化させ西日本豪雨災害を風化させない。	○児童の中で「よいところ」の認識に固定概念があるのではないか。(足が速い、計算が得意、等) ○4月当初に生徒指導主事が学校生活の中で「思いやり」のある行動の大切さをおさえたことで、思いやりをもった行動をしようという意識が高まっている。 ○自分からあいさつをする児童が増えてきたように感じる。担任間で意識の違いがあるのか、学年差が大きい。 ○プレハブトイレのスリッパが揃いにくい。 ○6年生のリーダーシップのもと、たてわり掃除に意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ○防災週間や避難訓練を通して児童の「自分の命は自分で守る」意識の向上を図ることができている。	○9月の生活目標を「人のよいところを見つけよう」に設定し、よいところを伝え合う場を意図的に設ける。 ○日々の生活の中で「よいところ」の認識を広げていけるように声かけをする。 ○引き続き、「いじめはどんな理由があっても許されない」という認識を児童にもたせるとともに、いじめに発展しそうな事案を見逃さず、未然防止に努める。 ○11月の生活目標を「自分から先にあいさつをしよう」に設定し、意識強化を図る。 ○プレハブトイレのスリッパの枠を設ける。 ○引き続き、縦割り掃除を継続する。 ○避難訓練のみでなく、天気不安定な時等にも、携帯マニュアルを見ながら自身の避難方法を確認させていく。
*	児童の基本的生活習慣の定着と体力の向上	○基本的な生活習慣を定着させる。 ○体力を向上させる。	○キュピナ等を活用しながら家庭学習をする習慣が身に付いている。 ○メディアの利用状況に課題が見られる。夜遅くまでの利用が遅寝に繋がっていると考える。 ○50メートル走には課題が見られるが、ソフトボール投げとシャトルランは記録が伸びている。体育の授業でのボール投げの継続や、3分間走の取組が結果に繋がったのではないか。	○道徳参観に情報モラルについての授業を実施し、適切な利用方法の確認や、ルール作りを行い家庭の協力を仰ぐ。 ○引き続き、体育の授業でのボール投げ運動を実施する。10月から3分間走を再開し、月1回程度全校シャトルランの日を設定し、他学年が取り組む様子を見せ合う。

業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	○働きやすい職場環境を実現する。	○2～6年生の児童の連絡帳を廃止し、タブレットを使用するようにしたことは効果的であった。朝の時間に児童と向き合う時間ができた。 ○主任を中心に分掌で相談して取り組んでいる。	○ICTの活用に関しては、キュピナでつかんだ児童の見取りを授業改善に生かし、ICTのさらなる効果的な活用を図る。 ○同僚性を高めるため、互いの良さを認め合ったり、互いに感謝の言葉を掛け合ったりできる職場環境をみんなで作る。
------	---------------------------	------------------	---	--